

(資料提供)

月 日	担当館名	電話	担当者
4月22日	県立近代美術館	Tel.088-668-1088 Fax.088-668-7198	学芸員 竹内 吉原

所蔵作品展「徳島のコレクション 2010-II 新収蔵作品を中心に」の開催について

1 趣旨

この展覧会は、徳島県立近代美術館の所蔵作品を紹介するものです。会場は、当館のコレクションの方針によって、「20世紀の人間像」「徳島ゆかりの美術」「現代版画」の3つのコーナーに分かれています。

今回は、平成21年度に新たに収蔵した作品を中心とした展示を行います。

2 会期 2010年4月17日(土)～7月19日(月・祝)

3 会場 徳島県立近代美術館
[展示室1、展示室2、美術館ロビー、屋外展示場、彫刻の小径]

4 開館時間 午前9時30分～午後5時

5 休館日 月曜日(5月3日、7月19日は開館します)、および5月6日(木)

6 観覧料 一般 200円(160円)
高・大生 100円(80円)
小・中生 50円(40円)

()内は20名以上の団体料金。

高齢者(65歳以上)と障害者は、割引があります(半額)。

祝日及び振替休日は無料です。

小・中・高生は、土・日・祝・振替休日、春・夏・秋・冬休み中の観覧料が無料になります。

7 関連事業

【学芸員による展示解説】

4月29日(木・祝)、5月30日(日)、6月27日(日)

時間：いずれも午後2時～2時45分

場所：展示室1・2(2階)

解説者：竹内利夫(専門学芸員)

4月29日は祝日のため全ての方が無料で参加いただけます。

土・日曜日は、一般・大学生の方は観覧券をお求め下さい。(小中高生は無料)

8 出品内容

当館の収集方針にあわせて、3つのコーナーで展示します。

【20世紀の人間像】新収蔵作品を中心に（展示室1）

今回は、平成21年度の新収蔵作品を中心とした展示です。人間像をテーマとした作品で、新たにコレクションに加わったのは、津田亜紀子 繰り返される模様、中西勝 盲の聖者たち、大森運夫 望郷 です。

津田の型どりによる作品にちなんで、展示テーマを「動と静」としました。展示室の前半は「動き」、展示室の後半は「型」をキーワードに編成しています。比べてお楽しみいただけたらと思います。

出品点数：全42点(新収蔵3点)

作品保護のため、6月7日を挟んで日本画などの展示替えを行います。

【現代版画】(展示室1)

今期のこのコーナーでは、「版画概念の拡大」が話題となった1970年代に着目し、現代版画の特性をシリーズで探っていきます。

70年代のグラフィック1 4月17日[土] - 5月16日[日]

元永定正、高橋秀の作品17点を展示。

70年代のグラフィック2 5月18日[火] - 6月20日[日]

加納光於、菊畑茂久馬、松谷武判の作品16点を展示。

70年代のグラフィック3 6月22日[火] - 7月19日[月・祝]

襲嘔の作品20点を展示。

【徳島ゆかりの美術】(展示室1・2)

このコーナーでは、県出身や徳島ゆかりの作家の作品のほか、徳島の風景や風物に題材をとった作品などを展示します。今回は、平成21年度の新収蔵作品を展示します。徳島県ゆかりの作家では、

三宅克己(みやけこつき 1874-1954年 徳島市生まれ)

広島晃甫(ひろしまこうほ 1889-1951年 徳島市生まれ)

石丸一(いしまるはじめ 1890-1990年 現・小松島市生まれ)

伊原宇三郎(いはらうさぶろう 1894-1976年 徳島市生まれ)

幸田春耕(こうだしゅんこう 1897-1976年 現・徳島市生まれ)

山下菊二(やましたきくじ 1919-86年 現・三好市生まれ)

幸田暁治(こうだぎょうや 1925-75年 京都府生まれ・春耕の子)

橋本省(はしもとあきら 1931年 鳴門市生まれ)

谷川泰宏(たにがわやすひろ 1957年 徳島市生まれ)の作品が収蔵されました。

出品点数：全35点(新収蔵)

作品保護のため、6月7日を挟んで日本画などの展示替えを行います。

このほかに、美術館ロビー、屋外展示場、彫刻の小径に12点を展示します。

総出品点数(会期中展示替を含む総点数)：142点(新収蔵38点)

分野別内訳：(会期中展示替を含む総点数)

油彩画他24点、日本画21点、彫刻・立体30点、版画57点、水彩画1点、素描1点、写真8点